

[037]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://hdl.handle.net/2324/4774263>

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース. 37, pp.1-, 2022-03. The Kyushu University Museum
バージョン：
権利関係：



NEWS

The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館ニュース

No. **37**
March, 2022

博物館が再開しました

新型コロナウイルス感染症対策として、2020年3月2日から箱崎サテライト旧工学部本館3階の常設展示室の公開を休止していましたが、本年1月11日に再開しました。あわせて1階にエントランス展示がオープンしました。また、本年5月11日には、フジイギャラリーが正式にオープンし、記念展示として「無にみつるもの」を開催します。

総合研究博物館第9代館長 宮本 一夫



『瓦経』福岡市西区飯盛山山頂出土



博物館再開

エントランス展示をOPENしました

中西 哲也 分析技術開発系・准教授

新型コロナウイルス感染症対策で一般公開を休止していた博物館展示が、2022年1月11日より再開されました。これに合わせて、箱崎サテライトの旧工学部本館1階に、エントランス展示をオープンしました。

展示は、旧工学部本館1階の玄関に入って左側(西側)の廊下部分を利用しています。これまで2階、3階廊下に分散して展示されていた展示物を集約するとともに、博物館のコレクションについてバナーで紹介しています。主な展示物はアンモナイト、貝類標本、昆虫標本、骨格標本、鉱物標本、考古学標本等です。また、一部の展示物については、九大博物館でレスキューを行ってきた木質什器を展示用のケースとして再生し、利用しています。

展示の見どころの1つ目は、国内最古の化石サンゴ礁の石板です。これは2006年に解体された、高知市の「とでん西武百貨店ビル」の内装に使用されていた「土佐桜」と呼ばれる石灰岩の石材で、約4億3000万年前の地層から採掘されています。2つ目は工学部列品室標本からセレクトした鉱物標本です。色や形が綺麗な

標本を選び、展示ケースとして、4×10マスの木質什器を再生して利用する事でコンパクトな壁面展示になっています。照明に調光可能なLEDを使用し、鉱物標本に最適な色温度を演出しています。3つ目は中世の碇石です。箱崎キャンパスの発掘調査で出土したもので、14世紀以前に船舶の碇泊具として使用されました。花崗岩を加工して作られたもので、長さ182cm、幅25cm、厚さ17cmの大きさです。この他にも、世界最大の昆虫やキリンやサイの骨格など見応えのある標本を展示しています。

エントランス展示の廊下を抜けた後は、階段を上がって2階廊下の元寇防塁パネル展示、3階の常設展示室へと順路を設定しています。階段踊り場には「壁龕」展示もありますので、併せて楽しみ下さい。

- ① エントランス展示全景
- ② 鉱物標本壁面展示
- ③ 「土佐桜」石板

博物館再開

よりぬき玉泉館 2022

— 歴史時代の蒐集品 —

米元 史織 開示研究系・助教



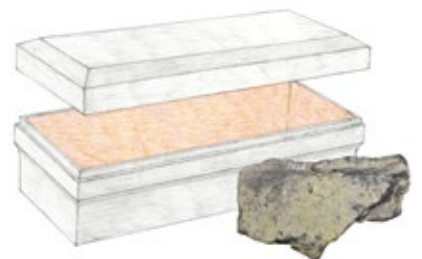
①

当館は、COVID-19の影響で閉館しておりましたが、2022年1月11日から活動を再開し、3階の常設展示室で「歴史時代の蒐集品—よりぬき玉泉館2022—」を行っています(1月20日以降学内限定オープンとなっています。詳細はHPなどでご確認ください)。

玉泉館とは、歴史地理教育のための実物資料収集に尽力した、旧制福岡高等学校教授玉泉大梁先生にちなんで名づけられた旧制福岡高等学校歴史地理資料室のことです。1930年に開設され、その後新制大学制度の施行とともに1949年に九州大学第一分校(その後の教養部)へ移管され、1987年に六本松地区図書館へ収蔵されました。そのうちの考古資料が2007年に総合研究博物館へ移管されました。総数にして10245点の資料です。

今回展示したのは、弥生時代須玖岡本出土の鏡と剣、古墳時代の装身具、岩戸山古墳出土の須恵器・土師器・円筒埴輪、東光寺剣塚の埴輪、飯盛山出土の瓦経、前畑古墳出土の馬具、中世博多の備蓄銭、博多城址の鯨、そして牽牛子塚古墳の夾紵棺です。いずれも一級品で、例えば夾紵棺片は、奈良県明日香村の牽牛子塚古墳から

出土した棺の破片です。牽牛子塚古墳の形状は八角墳で、巨大な削り抜き式横穴式石槨と夾紵棺を有することから齊明天皇(日本の第35代



②

および第37代天皇)後に比定されている古墳です。この麻布を漆で何重にも貼り重ねてつくられた棺の破片は、飛鳥時代の天皇の棺の破片の可能性があるということです。

③



「歴史の何たるか」、玉泉教授の残した言葉は、思わず知らず思い込んでいる歴史認識を問い、「我々」を再構築する歴史学の本質をよく表しています。

沢山の人が、多くの先学の努力によって遺された玉泉館資料を、その目にすることができるよう、今後も色々な展示を行っていきます。

① よりぬき玉泉館 2022

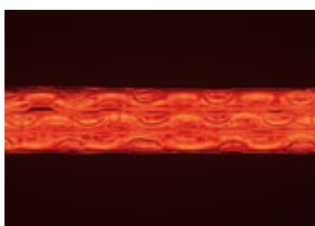
② 夾紵棺 (岩永教授作)

③ 東光寺剣塚古墳と埴輪 (岩永教授作)

COLUMN①

フジイギャラリー グランドオープン

三島 美佐子 一次資料研究系・教授



フジイギャラリーが、5月11日の開学記念にあわせ、いよいよ本格オープンすることになりました! COVID-19拡大による度重なる順延を経て、満を持してのグランドオープンです。一般公開されるグ

ランドオープン記念展示として「無にみつるもの」を開催します。無と有の狭間をアートで探求し続けている美術家・栗山斉(芸術工学研究院准教授)によるインスタレーションです。そのほか、サイエンス&アート

をテーマとしたサイエンスカフェを、5年ぶりに復活する「Qcafe」で年間を通して開催することを予定しています。

写真: 栗山斉《真空トンネル》(部分)

Photo by Hiroshi Noguchi
courtesy: Art Front Gallery

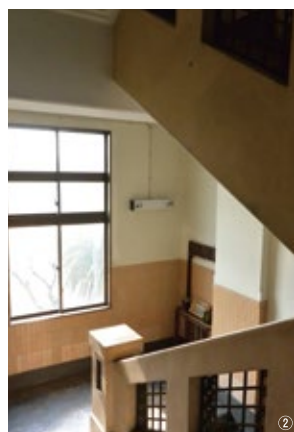
博物館再開

スタンプラリーと階段踊り場の小展示

福原 美恵子 技術補佐員



再開館にあたり感染対策のため見学者と当館関係者の動線が重ならないよう見学路を指定したため、3階の常設展示室へは建物の端にある階段を積極的に利用していくことになりました。見学者の方をエレベーターだけでなく自然に階段側に誘導するための工夫として、スタンプラリーと階段の踊り場に小さな展示を行うことにしました。階段の踊り場の壁にはアルコーブ？ニッチ？どう呼ぶのがふさわしいかわかりませんがわずかに後



退したくぼみがあります。展示環境としては劣悪なので標本等を置くことはありませんが、小型の救済什器を配置し当館のSNSで紹介した福岡の自然や遺跡の話題の掲示、クラフトの紹介、自然界へ通ずる窓のような小さなテラリウムを置いたりする場所になればと考えています。博物館・美術館の役割を

広く周知するために制定された「国際博物館の日」(5月18日)にあわせ、福岡市では「福岡ミュージアムウィーク」が開催されてきました。当館も毎年参加して、2014年から2019年分までスタンプラリー用のスタンプとして6種類を作成しました。どの図柄も当館に関わる小さな物語が刻まれています。2021年は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、残念ながらスタンプラリーの実施が見合わせられ、今後はデジタル等の非接触での実施が検討されているとのことで、これまでの形での実施はなくなりそうです。そういう経緯からスタンプラリーの台紙には「復刻」とタイトルに入れています。

スタンプラリーのアイデアは、博物館特有の「暗さ」を就学前の子供達が怖がるのが少なくないけれど、スタンプラリーがきっかけで暗い展示室をずんずん進めて、帰宅後スタンプが押された台紙を見ながらその体験を楽しくお話してきたという教職員の体験から生まれました。台紙は御朱印帳くらいの大きさで、当館の紹介と旧工学部本館の素敵なイラストも描かれています。来館記念として楽しんでいただけたらと思います。



- ① スタンプラリーのロゴ
- ② 装飾が施された階段
- ③ 台にも救済什器を利用しています

COLUMN②

「大野城市こころのふるさと館での公開展示」

米元 史織 開示研究系・助教



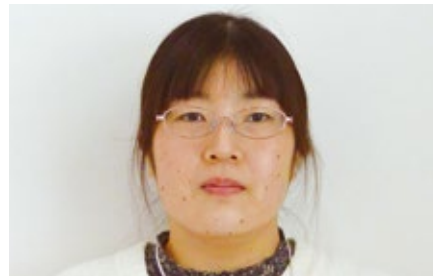
2022年7月中旬から9月の初旬、夏休み期間に、大野城市こころのふるさと館で、「きゅーだいのお宝、みつけた! 知のワンダーランドへようこそ」展を開催する予定です。化石・昆虫・鉱物・植物・動物骨

など当館の自然史系資料群を一挙に公開する大規模なものになる予定です。ご期待ください。

※ 大野城市こころのふるさと館 外観写真

着任のご挨拶

利用しやすい環境整備



林 史子 技術補佐員

2022年2月より技術補佐員として箱崎サテライトに勤務しています。主に展示関連、Webサイト関連、常設展示室関連の業務を担当しています。

最近では、サテライト展示のパネル作成やHP内のバナーのデザイン修正を行いました。文字の大きさ・配置など、見やすさ、分かりやすさを重視して取り組みました。

職員会館から寄贈を受けた絵画の整理も行っています。それぞれの絵画にあった箱を作成し、その絵画の情報を箱に貼り付けて保管します。エクセルにも同様に情報をまとめているところですので。必要な時に情報の確認がしやすいように整理を進めています。

きたいと考えています。

また、日々の業務として常設展示室の整頓、清掃などを行っています。来館者が快適に利用できるように環境整備をします。

常設展示室は旧工学部本館にあるため、建物自体に歴史を感じることができますが、そこに救済什器を使用した展示がされていることで、展示物を見ながら、歴史をより肌で感じることができる魅力的な空間だと感じています。その魅力を学生・教職員だけでなく、学外の方々にも広く知っていただきたいです。

博物館の利用者が利用しやすい環境を日々整えながら、展示物への興味や理解を深める一助となるよう努めて参ります。

城戸克弥収集甲虫標本の寄贈受け入れ

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

城戸克弥さんは福岡県各地で小学校の先生をつとめられ、2013年に大野城小学校の校長を退職された後、当館の協力研究員として昆虫標本、とくに甲虫標本の整理や同定を積極的に進めてくださっています。当館が設立されて以来、たくさんの標本の寄贈を受け入れてきましたが、昆虫担当の私の多忙もあり、なかなか整理が追い付かない状態でした。城戸さんはそれらの標本を丁寧に細かく仕分けし、分類体系にあわせて正確に整理してくださいました。現在、当館の甲虫標本は非常によく整理されていて、使いやすい状態にあります。大部分の標本に



ついては、城戸さんのおかげで現在の状況があると言って間違いありません。

2019年に亡くなった故森本桂先生(名誉教授:当館のゾウムシ標本の膨大なコレクションを

作られた)とは学生時代よりお付き合いがあったそうで、城戸さんが協力研究員として当館に来られた際には、「私も城戸君にお願いしようと思っていたんだよ」と森本先生が喜ばれたのが昨日のように思い出されます。また、城戸さんからお聞きしたことで、故佐々治寛之先生(森本先生の同級生で、テントウムシの大家。福井大学に勤められ、収集標本は当館にある)や故中條道崇先生(前号でご紹介)とも昔からご交流があり、整理作業にあたってはそのようなご縁も感じられているそうです。何を隠そう城戸さんは福岡県の甲虫相(その地域にどのような甲虫がいるか)の解明の泰斗であり、膨大な種数の甲虫を福岡で採集され、

記録が続けられています。そういった調査が続けられてきた知識があってこそ、見事な整理をしていただけたと思っています。

ちなみに、実は九州は、関東地方などに比べて昆虫の個体数が少なく、非常に昆虫採集がしにくい地域です。東京出身の私が福岡に来て一番がっかりしたところですが、そんな場所でも城戸さんは確実にさまざまな甲虫を採集する知識と技術をお持ちで、いつも城戸さんの発表された報告を拝見すると驚いてしまいます。



2020年、そんな城戸さんの甲虫標本をまとめてご寄贈いただきました。主に福岡県の甲虫からなり、約7万4千点を数えます。城戸さんは一種につき多数の標本を採集されない主義で、種数において非常に密度の高いコレクションともなっています。城戸さんの調査は現在も進行中で、今後も標本を追加してくださるそうで、ますます質の高い収蔵標本となります。

当館の活動にはさまざまな方のご協力をいただいておりますが、城戸さんにお手伝いいただけていることは大変な幸運と言えます。こちらとしては、城戸さんの標本や整理して下さった標本を末永く保存できるよう努力することが、城戸さんへのなにより

の恩返しになるのではないかと考えています。

①きれいに整理された城戸さんの標本箱(テントウムシの一部)

②福岡の山で甲虫を採集される城戸さん(叩き網法)





フジィギャラリー先行展示

「THE NICHEーきみだけのニッチをさがせ！」

三島 美佐子 一次資料研究系・教授／吉田 明世 テクニカルスタッフ

期間 ● 第一期: 2021年12月6日(月)～24日(金)／第二期: 2022年1月4日(火)～2月18日(金)

2022年5月にグランドオープン控えたフジィギャラリーで、伊都キャンパスを舞台とした試験的な先行展示「THE NICHEーきみだけのニッチをさがせ!」を実施しました。元々隙間や適所という意味を持つ「ニッチ」という言葉をヒントに企画しました。

展示の目玉は、伊都キャンパス1/150の大きさの簡易模型です。第一期では、伊都キャンパス造成・建物建設期間である約15年間の1年を1日に換算、建物の竣工順に模型を配置しました。移転完了後にできたフジィギャラリーは、12月24日の“竣工”。76個の建物模型からなる巨大な伊都キャンパスが“完成”しました。

この模型では、丘陵地を開拓したキャンパス特有の地形を、9つの高低差に分けて表現。キャンパスを歩いているような演出として、歩行者専用の空間「キャンパス・モール」にあたる部分を来場者の動線としました。

模型の設置台には、九州大学が戦前から使い続けてきた歴史的な木製家具を使用。台と模型の間を埋めるのは、学術資料や学術誌です。今ある伊都キャンパスを支えているのは、

本学の100年にわたる研究・教育であることを表しました。

展示会場であるギャラリー2は、壁面の広大さが特徴です。それを活かし、伊都キャンパスの年表や1/1000スケールの最新航空写真、「キャンパス・マスタープラン」から抽出したキーワードのグラフィックを大きく展示しました。

第二期では、展示を「観る」という楽しみに加え、コロナ禍で減りがちな「交流」を間接的に生み出す工夫をしました。会場内にペンや付箋、紙粘土を揃えた工作コーナーを設置し、来場者が、模型や壁面展示に伊都キャンパスへの思いや課題を記入できるようにしました。展示期間が進むにつれ、来場者の思いを代弁する愛らしい“アバター”や“落書き”が増えていき、賑やかな会場となりました。

感染状況の悪化に伴う公開の制限もあり、総来場者は155名と小規模な公開となりましたが、「伊都キャンパス」の「ニッチ」に気付く体験型の展示として意義あるものになりました。5月のグランドオープン記念展示に続き、秋には糸島エリアのまちづくりを主とした「THE NICHE II」を開催予定です。今後の展示にも是非ご期待ください。

COLUMN③



フジィギャラリーのロゴマークを公募しました

吉田 明世 テクニカルスタッフ

フジィギャラリーのシンボルとして、令和3年7月26日～8月20日にロゴマークの公募を行いました。県内外から多数の応募があり、厳正な審査の結果、大賞1点、総長賞1点、審査員特別賞1点が選定されました。

大賞に選ばれたロゴマークは、令和4年5月のグランドオープンに合わせてお披露目予定です。今後、ウェブサイト、広報、グッズ等に広く利用されます。

今回集まった作品には、フジィギャラリーの外観や意図を表現

した素敵なアイデアが多く、デザインコンセプトにも様々な思いを寄せて頂きました。ご応募いただいた皆様、ありがとうございます。ロゴマークはグランドオープンに合わせて公開いたします。楽しみにしてください。

研究紹介

最新研究成果の新展示

大山 望 大学院理学府地球惑星科学

2022年1月11日の総合研究博物館の再開館に合わせて3階の常設展示室に新たな展示を2つ公開しました。今回はその展示の概要について解説します。ぜひ実物を総合研究博物館で観察してみてください。



1つは、「見た目に隠された化石の裏の顔」というアンモナイト化石に注目した展示です。2020年に豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書で報告した標本(前田ほか、2020)と、福岡県北九州市立響灘緑地さんと連携し研究した標本を展示しています。実は、化石には、我々にもあるように、見た目ではわからない“裏の顔”というものがあります。今回はその“裏の顔”を暴くために様々な地域や時代のアンモナイト化石を裁断・研磨し、その壊れ方に注目し観察しました。すると、見た目ではわからなかった化石の保存状態を推定する手掛かりが多く見つかりました。たとえば、マダガスカル共和国の下部白亜系(約1億2000万年前)のアンモナイト化石に注目すると、真珠光沢を示す殻など保存が良いように見えますが、その内部構造を観察すると空気タンク(気室)の仕切り板(隔壁)が壊れ泥で埋められていることが分かりまし

た。このことから、アンモナイトの死後、何らかの作用で殻が壊れ、泥が殻の内部に流れ込んだことが分かります。このように様々な角度から観察することでその化石が化石になるまでの過程の一部を読み解くことが出来ます。みなさんもぜひ、博物館に展示されている化石をよく観察して、その“裏の顔”を暴いてみてください。



もう1つは昨年話題となった「福徳岡ノ場から噴出した軽石」についての展示です。本展示は、松岡廣繁博士(京都大学・助教)に資料をご提供いただき、河野秀晴氏(九州大学・大学院)・森祐紀博士(九州大学)・島田和彦氏(九州大学)に鉱物同定のご協力をいただきました。2021年8月に海底火山である福徳岡ノ場で大規模噴火が発生し、たくさんの軽石が噴出しました。今回はその軽石とそれに付着する生物に注目しました。顕微鏡プレパラートでは、マグマが発泡したスポンジ状の組織や火山ガラス、カンラン石や輝石、斜長石などの鉱物が観察できます。さらに、約5mmのエボシガイが付着していることから、軽石の漂流中に付着生物が成長し、すでに軽石が海の生態系の一部として組み込まれていることが分かりました。一方で、海洋生物が餌と誤って食べてしまう事が報告されており、生態系や漁業への悪影響も懸念されています。

図1 アンモナイト展示の様子
図2 マダガスカル産のアンモナイト化石
図3 軽石展示の様子



COLUMN④

第21回公開展示 in 大牟田市石炭産業科学館

伊藤 泰弘 開示研究系・准教授



「野田榮コレクション—大牟田産化石と九大標本でつむぐ大学博物館のいま—」と題し、3月19日から5月8日までの日程で、当館第21回公開展示を大牟田市石炭産業科学館にて開催します。野田コレクションは、大牟田市出身で小学

校教師をされていた故野田榮先生の化石コレクションで石炭産業科学館に所蔵されています。現在当館が連携して標本のキュレーションとデジタルアーカイブ化を進めています。今回は学生が主体となって構成を考えた実験的な展示と

なっていますが、大学博物館の役割と最新の研究について紹介します。地元の大牟田産化石を、当館所蔵のさまざまな化石や貝類標本と比較することで、博物館の意義や自然史科学の基礎について知ってもらえればと思います。

展示・講演会関係の活動状況

Activities of Exhibitions & Conferences

特別展示

●本館特別展示

期間○1月11日～(COVID-19の状況に応じますので詳細はHPをご確認ください)

場所○旧工学部本館

1階「エントランス展示」

2階「防壁再発見」

階段踊り場・スタンブラリー

「博物の森を歩こう」

3階常設展示室ミニ展示コーナー

「よりぬき玉泉館2022 ー歴史時代の蒐集品ー」

●オンライン&トークイベント

「リスニング・ミュージカム 博物館が聴く」

ガムラン曼荼羅パラグナ hakata・博物館ライブ

実施日○令和3年12月14日(月)

エアリアルスの歌

アースリズムの植物文様ソングブック

実施日○令和3年11月28日(日)

アコーディオン・イン・バロック

バツハから植物文様へ

実施日○令和3年10月31日(日)

場所○箱崎水族館喫茶室より配信

主催○地域共創協学ミュージウム活動基盤整備実行委員会
(中核機関：九州大学総合研究博物館)

協力○箱崎水族館喫茶室

文化庁令和3年度

「地域と共働した博物館創造活動支援事業」採択

「街づくりを先導するユニークベニューとしての大学博物館を核とした地域共創協学のミュージウム活動基盤整備事業」により実施

●フジギャラリー 2021年度先行企画

「THE NICHE ーきみだけのニッチを探せ!」

期間○第一期 令和3年12月6日(月)～24日(金)

第二期 令和4年1月4日(火)～2月18日(金)

場所○九州大学伊都キャンパスフジギャラリー

共催○九州大学総合研究博物館、キャンパス計画室

協力○アジア・オセアニア研究機構、施設部、人間環境学府、
統合新領域学府ユーザー感性学専攻、
社会連携推進室、公益財団法人九州大学学術研究
都市推進機構(OPAK)

●動画配信「九大箱崎サテライト紹介シリーズ

おしゃべり MUSICUM(ミュージカム)」

I. 建物編 其ノ一：正門～煉瓦塀～門衛所～掲示板

其ノ二：旧本部第一庁舎、旧本部第二庁舎

其ノ三：旧工学部本館

建物編アフタートーク

II. 考古編 其ノ一：元寇防壁

其ノ二：箱崎遺跡群

其ノ三：埋蔵文化財

考古編アフタートーク

期間○令和4年1月11日(火)より順次公開中

場所○YouTube チャンネル

「九大博物館」2021年度文化庁支援事業」

主催○地域共創協学ミュージウム活動基盤整備実行委員会
(中核館：九州大学総合研究博物館)

文化庁令和3年度

「地域と共働した博物館創造活動支援事業」採択

「街づくりを先導するユニークベニューとしての大学博物館を核とした地域共創協学のミュージウム活動基盤整備事業」により制作・公開

公開展示

●「野田榮コレクションー大牟田産化石と九大標本でつむぐ大学博物館のいまー」

期間○令和4年3月19日(土)～5月8日(日)

場所○大牟田市石炭産業科学館企画展示室

共催○大牟田市石炭産業科学館、九州大学総合研究博物館

サテライト展示

●福岡県の蝶

期間○令和4年2月24日～

場所○糸島市立糸島市図書館二文館

●福岡県のクワガタ

期間○令和4年2月24日～

場所○糸島市立伊都文化会館

●福岡県のクワガタ

期間○令和4年2月24日～

場所○糸島市立志摩歴史資料館

その他の活動状況

Others

運営委員会

令和3年12月21日(書面)

令和4年1月12日(WEB)

令和4年2月28日(書面)

人事往来

Personal Changes

昇任・着任

●令和3年11月1日

伊藤 泰弘が准教授に昇任しました。

●令和3年12月31日

事務補佐員の隈本 素子が退職しました。

●令和4年1月1日

香月 千佳が事務補佐員として着任しました。

●令和4年2月1日

林 史子が技術補佐員として着任しました。



▶ 総合研究博物館では、『博物館活動充実基金』として皆様からのご寄付を受け付けています。

手続きの流れ

1. 当館 HP に掲載の寄附申込書(博物館活動充実基金用)にご記入ください。
2. 事前に博物館事務室までご連絡頂ければ、申込書記入内容の確認をいたします。
3. 寄附申込書原本を、博物館事務室までご郵送願います。
4. 入金依頼書をお送りいたしますので、同封の振込用紙により納入してください。
5. 入金確認後に、御礼状と「寄付金領収書」をお送りさせていただきます。寄付金領収書は税法上の優遇措置に必要ですので、確定申告まで保管して下さい。

※当基金への寄付金は、所得税、法人税、相続税、住民税(自治体により異なります)の優遇措置をうけることができます。

詳細は当館ホームページもご参照ください。

<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>

お問い合わせ先：総合研究博物館事務室／電話 ●092-642-4252／メール ●office@museum.kyushu-u.ac.jp

九大博 充実基金

